

お問い合わせ先

海上保安庁総務部国際・危機管理官付課長補佐
彼末 浩明

03 - 3591 - 9802 (直通)

03 - 3591 - 6361 (内線3310)



平成21年9月10日

海上保安庁

北太平洋の海上治安確保のための6カ国長官級会議

(「第10回北太平洋海上保安サミット」の結果概要)

鈴木久泰海上保安庁長官は、9月8日(火)から10日(木)まで、北太平洋地域6カ国の海上保安機関の長官級による「第10回北太平洋海上保安サミット」に出席しました。

本サミットは、北太平洋における海上の秩序維持を目的として、日本、カナダ、中国、韓国、ロシア及び米国の海上保安機関のトップが一堂に会し、法執行機関としての具体的な連携・協力方策について話し合いを行うものです。

2000年12月に当庁の呼びかけで開催されて以来、毎年1回開催され、本年は、韓国が2回目のホスト国を務めました。結果概要は以下のとおりです。

1 日程及び場所

平成21年9月8日～10日

韓国・プサン

2 各国代表

日本 海上保安庁(鈴木久泰 長官)

カナダ カナダ沿岸警備隊(ジョージ・ダ・ポント 長官)

中国 公安部(王 正平 边防管理局参謀長)(代理)

韓国 海洋警察庁(イ・キルボム 庁長) 議長

ロシア ロシア連邦保安庁国境警備局

(ビクトル・トルファノフ 副長官)(代理)

米国 米国沿岸警備隊(デビッド・ペコスキー次長)(代理)

各国代表団の参加者合計100名超

3 会合の成果

別紙のとおり

<概要>

実践的な連携・協力の促進

2009年8月にポートエンジェルスとシアトルで開催された多国籍・多目的訓練(MMEX)を評価するとともに、ロシア・ウラジオストックで開催される予定の2010年のMMEXの更なる発展のため、自動情報交換システム上のヴァーチャルオペレーションセンターの活用等、努力を続けていくことが確認された。

特別関心船舶の定義、体系的分類の策定

参加当局間での情報共有の促進を図るため、特別関心船舶の定義、体系的分類を策定した。

新たな試み

テロリストの攻撃等、海上治安への脅威に対する共通の手続を整備するために、今後、シナリオを作成していくことに合意した。

また、不法移民に対する机上訓練に関し、各国の不法移民の状況に応じたシナリオを作成するとともに、実際に事案対応を行う者を訓練に参加させていくこととした。

更に、違法な薬物取引の現状を踏まえ、違法薬物取引防止対策推進のため、WGの目的の更なる明確化、今後のWGの方向について検討することに合意した。

情報交換・情報収集

6カ国が共有する自動情報交換システムの活用が進んでいることが評価されるとともに、自動情報交換システム活用ガイドラインを策定するとともに、今後、特別関心船舶の情報交換に係るより詳細な手続を策定していくことに合意した。

北太平洋海上保安フォーラムの役割

北太平洋海上保安フォーラムが北太平洋地域の海上における治安・秩序の安定に果たしている積極的な役割を評価し、連携・協力関係の促進のため新たな6カ国の共同宣言となる「釜山宣言」を採択した。次回の開催国はカナダに決定した。

注： 特別関心船舶

定義： 国籍不明船、国内法に基づき、違反行為を犯し又は侵した疑いのある船舶並びに違反行為を行うために使用されたことがあり又は使用されている船舶

分類： 不法移民、密輸、違法操業、海賊等、国籍不明、海上セキュリティ上の脅威(船舶に対する暴力行為、国際指名手配乗組員、PSC等)、環境への脅威、その他